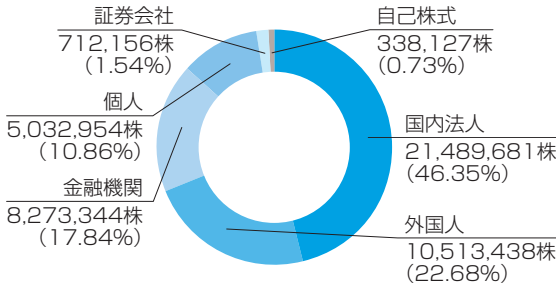


株式の状況(2023年9月30日現在)	
発行可能株式総数	101,568,000 株
発行済株式総数	46,359,700 株
株主総数	7,281 名

大株主(上位10名)		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東ソー株式会社	20,379	44.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,030	8.76
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,319	5.04
KBC BANK NV - UCITS CLIENTS NON TREATY	902	1.96
DZ PRIVATBANK S.A. RE INVESTMENTFONDS	870	1.89
野村信託銀行株式会社(投信口)	574	1.25
株式会社みずほ銀行	464	1.01
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	397	0.86
OP CORPORATE BANK PLC - OP - CLEAN WATER FUND	379	0.83
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE - AC)	377	0.82

※持株比率は自己株式(338,127株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営統括本部 経営企画部 電話 03-5635-5111
当社ウェブサイト <https://www.organo.co.jp/>



株主メモ		
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	6月	
基準日	定時株主総会の議決権 期末配当 中間配当	3月31日 3月31日 9月30日
単元株式数	100株	
公告掲載方法	電子公告 公告掲載URL https://www.organo.co.jp/ ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。	
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社	
連絡先 郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号	
電話照会先	0120-782-031 (フリーダイヤル)	
上場証券取引所	東京証券取引所(プライム市場)	

株式に関する諸手続のお申し出先について

- 住所変更、配当金受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続につきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。
- 証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様の株式の諸手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
- 未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社の全国本支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く)でお取り扱いいたします。



第79期中間 株主通信

2023年4月1日～2023年9月30日



ORGANO

オルガノ株式会社

証券コード：6368

経営理念

オルガノは
水で培った先端技術を駆使して
未来をつくる産業と
社会基盤の発展に貢献する
パートナー企業としてあり続けます

長期経営ビジョン

- 付加価値の高い分離精製・分析・製造技術を基に、事業領域と展開地域を拡大し、産業と社会の価値創造と課題解決を推進する製品・サービスを絶えず提供します
- 昨日までのやり方を、明日に向けて、今日変える人をつくり、一人ひとりが働きがいと活力に満ちた企業を構築します

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第79期事業年度上期(2023年4月1日～2023年9月30日)の概況をご報告申し上げます。

当上期の当社グループを取り巻く市場環境は、主力市場である電子産業分野においては、半導体市況が低調に推移したものの、世界的なサプライチェーン再構築の動きや長期的な半導体需要拡大の見通しなどから、投資は活発に推移しております。また一般産業分野や電力・上下水など社会インフラ分野では堅調な動きが続いています。

このような状況のもと、当社グループの業績は、受注高は前年同期に国内や中国の大型半導体案件を受注した反動で若干減少したものの、売上高は設備保有型サービスなどのソリューションサービスや機能商品事業が好調に推移したことから増収となりました。利益面につきましては、コスト上昇が懸念される中、プラント案件の利益率の改善が進み、比較的採算性の

良いソリューションサービスや機能商品事業の売上が伸長したことから増益となり、上期としては最高益となりました。

当期の中間配当につきましては、好調な業績を勘案し、1株当たり41円といたしました。

今後も変化する事業環境において成長を続けるため、エンジニアリング業務のデジタル化等の業務効率化を推進するとともに、人的資本への投資や事業投資等に取り組んでまいります。また、技術面だけではなくESG(Environment(環境)、Social(社会)、Governance(企業統治))面からも高度化する顧客のニーズに対応できるよう、新たな技術開発やソリューションサービス開発、サプライチェーンの整備などを進め、企業価値の向上にさらに努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2023年12月



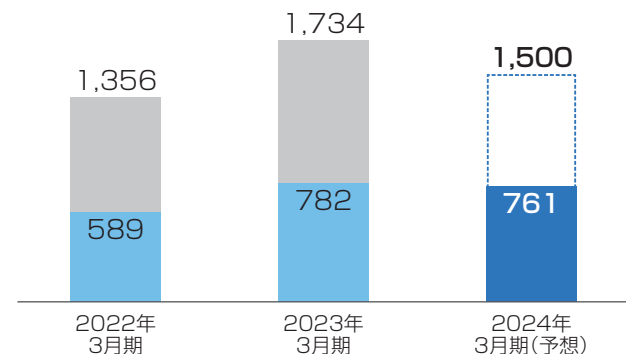
代表取締役社長 社長執行役員

山田 正幸

受注高

761 億円 前年同期比 2.7%減

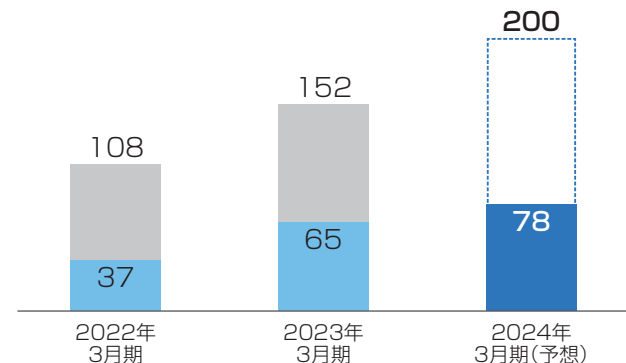
■ 中間期 ■ 通期 (単位: 億円)



営業利益

78 億円 前年同期比 20.7%増

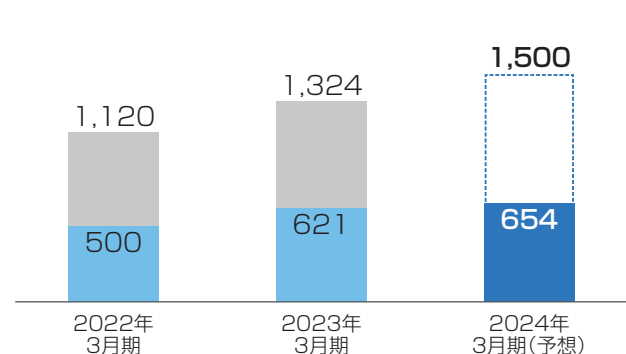
■ 中間期 ■ 通期 (単位: 億円)



売上高

654 億円 前年同期比 5.4%増

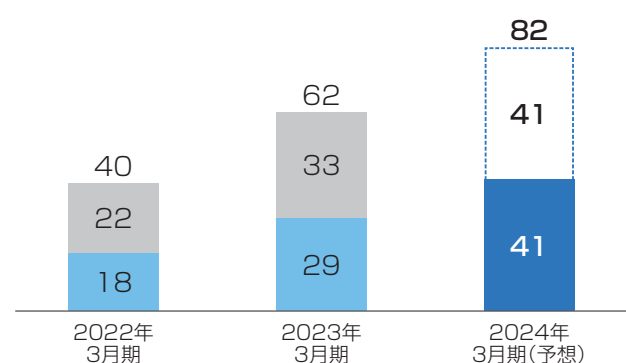
■ 中間期 ■ 通期 (単位: 億円)



1株当たり配当金

41 円 + 12 円 (前年同期は29円)

■ 中間期 ■ 通期 (単位: 円)



※ 配当金額は2022年10月1日付の株式分割後のベースで記載しております。

	2022年度実績	2023年度		2025年度 (中計最終年度) 計画
		期初計画	修正計画	
受注高(億円)	1,734	1,500	1,500	1,700
売上高(億円)	1,324	1,500	1,500	1,700
営業利益(億円)	152	160	200	185
売上高営業利益率(%)	11.5	10.7	13.3	10.9
自己資本当期純利益率(ROE)(%)	14.5	12.6	15.3	12.6

見通し

中期経営計画最終年度の利益目標を2年前倒しで達成の見通し

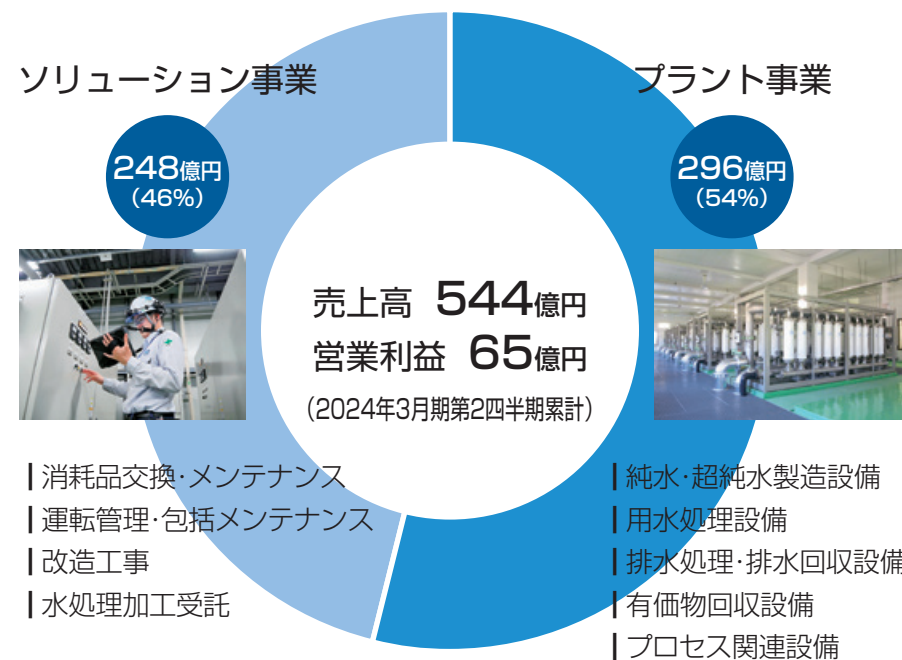
■ 受注高・売上高

電子産業分野の一部案件に投資計画や工事のスケジュールなどに遅れが懸念されるものの、国内外で半導体の製造拠点分散や半導体の需要拡大などを見据えた投資が複数計画されており、期初計画の達成を見込む。

■ 営業利益

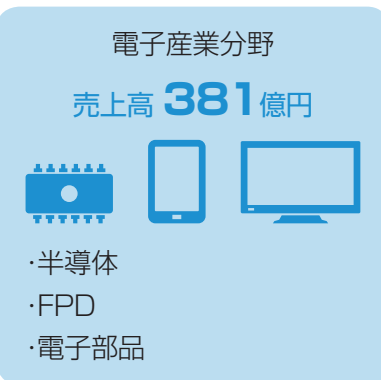
プラント案件の利益率改善や比較的採算性の良いソリューションサービス・機能商品事業の好調により200億円の大台到達を見込む。

水処理エンジニアリング事業



売上高は、電子産業分野で海外の一部案件での工程が遅延したものの、国内において大型案件の工事が順調に進捗したことに加え、メンテナンスや設備保有型サービスなどのソリューション事業が好調に推移したことから増収となりました。

利益面では、増収効果に加え、プラント案件での利益率の改善やソリューション事業の好調により増益となりました。



機能商品事業



売上高は、水処理薬品分野では電子産業向けの各種薬剤など、標準型機器・フィルタ分野では小型の純水装置や産業用の浄水フィルタなど、食品分野では各種食品添加剤などの販売が好調に推移し、増収となりました。

利益面では、原材料価格などコストの上昇や人件費など経費増加の影響があったものの、各分野の増収効果によって増益となりました。



●「JPX 日経インデックス400」および
「JPX 日経中小型株指数」構成銘柄に選定



この度、当社は2023年度(2023年8月31日～2024年8月29日)の「JPX 日経インデックス400」の構成銘柄として初めて、また、「JPX 日経中小型株指数」の構成銘柄としても3年連続で選定されました。「JPX 日経インデックス400」は資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点などグローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした「投資者にとって投資魅力の高い会社」400銘柄で構成されています。また、同コンセプトを中小型株にまで適用した株価指数が「JPX 日経中小型株指数」であり、200銘柄が選定されています。

今後も株主の皆様にとって「投資魅力の高い会社」であり続けられるよう、企業価値の向上やコーポレートガバナンスの改善に取り組んでまいります。

● Rapidus株式会社IIM-1 (Innovative Integration for Manufacturing)
プロジェクト参画

9月1日(金)、キオクシア、ソニーグループ、ソフトバンク、デンソー、トヨタ自動車、NEC、NTT、三菱UFJ銀行の日本の主要企業8社が出資し最先端半導体の国産化を目指すRapidus株式会社の製造施設「IIM-1」の起工式が北海道千歳市で開催され、当社も参加いたしました。

起工式には、Rapidus株式会社の経営陣や建設関係者のみならず、来賓として経済産業大臣、北海道知事、千歳市長など多くの関係者が参加され、建設工事の安全を祈願しました。IIM-1は、国内初となる2nm以下の最先端ロジック半導体を製造する施設で、2025年4月にパイロットラインを稼働し、2027年には量産を開始する計画です。当社も設備施工メーカーとして本プロジェクトに関与しており、日本の産業力の強化に貢献してまいります。



IIM-1完成予想図
(出所: Rapidus株式会社)

● 海外メディア掲載のご紹介

当社の代表取締役社長山田正幸のインタビュー記事が、6月23日発行の「Newsweek」国際版、および7月23日発行の「TIME」に掲載されました。いずれも米国で創刊された国際的ビジネス週刊誌で、「Newsweek」は1933年創刊、世界59カ国、4,600万人以上の読者を、「TIME」は1923年創刊、世界200カ国、2,200万人以上の読者を有します。

主力事業である半導体製造工場向け超純水装置や独自の水質分析技術の開発、また研究機関向けの小型超純水装置、そして学術機関向けの装置など多岐にわたり取材された内容となっています。

更なる海外展開を図る中、より多くの海外の方に当社を知っていただく機会を得られるよう、今後も海外向け広報活動にも取り組んでまいります。



(取材: Content by The WORLDFORIO)

Newsweek International
(2023年6月23日発行)



(取材: Content by Global Kigyo Co.,Ltd)

TIME
(2023年7月23日発行)



当ページの無断転載・複写・印刷を禁止します。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前期末 (2023年3月31日現在)	当第2四半期末 (2023年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	136,765	142,309
固定資産	28,088	28,319
有形固定資産	20,795	20,658
無形固定資産	949	951
投資その他の資産	6,343	6,709
資産合計	164,854	170,628
負債の部		
流動負債	68,738	70,216
固定負債	9,744	8,848
負債合計	78,483	79,064
純資産の部		
株主資本	84,123	88,238
資本金	8,225	8,225
資本剰余金	7,508	7,508
利益剰余金	69,002	73,021
自己株式	△ 613	△ 517
その他の包括利益累計額	2,047	3,091
非支配株主持分	201	233
純資産合計	86,371	91,564
負債純資産合計	164,854	170,628

● 資産の部

仕掛品が減少したものの、リース投資資産が増加したことなどにより5,774百万円増加しました。

● 負債の部

仕入債務が減少したものの、契約負債が増加したことなどにより581百万円増加しました。

● 純資産の部

親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加などにより5,192百万円増加しました。

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

39百万円の資金増加となりました。主な資金の増加は税金等調整前四半期純利益によるものであり、主な支出は水処理加工受託用設備の建設などによるものです。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

808百万円の資金流出となりました。主な支出は有形固定資産の取得によるものです。

● 財務活動によるキャッシュ・フロー

455百万円の資金流出となりました。主な支出は配当金の支払いと長期借入金の返済によるものであり、主な資金の増加は短期借入金によるものです。

当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末に比べ767百万円減少し、14,790百万円になりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期(累計) (2022年4月 1日から 2022年9月30日まで)	当第2四半期(累計) (2023年4月 1日から 2023年9月30日まで)
売上高	62,117	65,469
売上原価	46,009	47,340
売上総利益	16,108	18,129
販売費及び一般管理費	9,597	10,274
営業利益	6,510	7,855
営業外収益	1,140	819
営業外費用	200	134
経常利益	7,451	8,539
特別利益	6	10
特別損失	11	22
税金等調整前四半期純利益	7,446	8,527
法人税等	2,410	2,985
四半期純利益	5,035	5,541
非支配株主に帰属する四半期純利益	7	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,027	5,538

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期(累計) (2022年4月 1日から 2022年9月30日まで)	当第2四半期(累計) (2023年4月 1日から 2023年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,848	39
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 779	△ 808
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,162	△ 455
現金及び現金同等物に係る換算差額	813	457
現金及び現金同等物の増減額	△ 7,652	△ 767
現金及び現金同等物の期首残高	20,198	15,558
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,545	14,790

会社概要

商 号	オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)
本 社	〒136-8631 東京都江東区新砂1丁目2番8号
創 業	1946年5月1日
資 本 金	8,225,499,312円
従 業 員 数	連結2,505名 (単体1,120名)
事 業 内 容	当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。

主要な事業所

開発センター	相模原
工 場	つくば、いわき
支 店	北海道、東北、関東、中部、関西、中国、九州

主要なグループ会社

連結対象子会社	
国内	海外
オルガノプラントサービス(株)	Organo(Asia) Sdn.Bhd.
オルガノフードテック(株)	奥加諾(蘇州)水処理有限公司
オルガノエコテクノ(株)	奥璐佳璐科技股份有限公司
オルガノアクティ(株)	Organo(Thailand) Co.,Ltd.
	PT Lautan Organo Water
	Organo(Vietnam) Co.,Ltd.
	Organo USA, Inc.
その他グループ会社	
国内	海外
(株)ホステック	Organo(Singapore) Pte Ltd
東北電機鉄工(株)	

取締役・監査役

代表取締役社長	山 田 正 幸
取締役	中 山 泰 利
取締役	須 田 信 良
取締役	本 多 哲 之
社外取締役	照 井 恵 光
社外取締役	平 井 憲 次
社外取締役	和 田 守 史
社外取締役	安 部 大 作
社外取締役	花 野 信 子
常勤監査役	田 實 嘉 宏
社外監査役	樋 口 達
社外監査役	児 玉 弘 仁

執行役員

社長執行役員	※ 山 田 正 幸
常務執行役員	※ 中 山 泰 利
常務執行役員	※ 須 田 信 良
常務執行役員	※ 本 多 哲 之
常務執行役員	浅 野 伸
常務執行役員	富 沢 真
常務執行役員	久 木 崎 誠
執行役員	國 枝 達 也
執行役員	島 田 健
執行役員	秋 元 英 良
執行役員	小 池 省 次 郎
執行役員	吉 田 晃
執行役員	雨 宮 徹
執行役員	江 口 正 浩
執行役員	笠 原 里 志

※は取締役兼務者です。